


いわき市立総合磐城共立病院

地域医療連携室だより

院長就任にあたって

いわき市立総合磐城共立病院

院長 新谷 史明



平成14年4月から12年間にわたり、院長を務められた樋渡信夫先生の後を受けて、いわき市立総合磐城共立病院の院長に就任しました。初代畠山靖夫院長から数えて八代目の院長ということになります。

私は昭和29年に北海道空知郡三笠町（現三笠市）に生まれ、岩見沢東高等学校を経て、東北大学医学部に入学し、昭和53年に卒業後、青森県立中央病院で2年間外科研修を行い、昭和55年当時の東北大学第一外科（佐藤外科）に入局しました。胆石の成因に関する研究で学位を取得、助手、講師を経て、平成元年に前任地帯広に赴任、平成6年10月に当院に着任、以来20年目を迎えました。学位論文は英文で書き、Tohoku Journal of Experimental Medicineに投稿しましたが、なかなか掲載してもらえず、最後に「英語のわかる人についてもらいたいなさい」と当時のEditor-in-chiefからいわれ、留学帰りの先輩にチェックしていただいたて、約1年かけてようやく掲載されました。30年ほど前の話ですが、そのEditor-in-chiefが、病院事業管理者である平則夫先生です。今もお会いするたび、身の引き締まる思いがします。

当院の連携室の担当を長くやっておりましたので、地域連携登録機関（医）の皆様には、連携機関訪問で直接ご要望を伺ったり、また新春賀詞交歓会で親しくお話をさせていただいたり、いろいろとお世話になりました。当院に赴任する前は内科・外科・脳外科・泌尿器科だけの小さな病院に勤務しており、周辺の病院との協力関係は大事なものと実感していました。いわきに着任してからしばらくは、日々の業務に忙殺され、病診・病病連携などという言葉には全く興味を失っていましたが、管理職になり、病院全体を見渡すことができるようになると、地域医療機関との連携はしっかりとしたものにしなくてはならないと痛感するようになりました。当院の地域医療連携システムは、ご紹介いただいた患者さんのご都合（病態も含めて）と病院の都合（予約診療制）とをすりあわせて、適切な診療機会をコーディネートするためのものです。担当医に相談し、必要な検査があれば予約を入れ、診察日程を調整します。そのためご返事に時間を要する場合もありますが、初代院長の「患者さんあつての病院」を実現するためのものでご容赦願います。

今年度の診療報酬改定の重点課題として、医療機関の機能分化・強化と連携ということがうたわれています。その中で共立病院は高度急性期・一般急性期病床を担うことになります。高度・急性期医療が必要な患者を受け入れ、高度な医療を提供し、退院支援を行い、在宅復帰を目指します。今のところ当院の退院患者の在宅復帰率は90%近くを維持しておりますが、在宅復帰困難な患者さんがいることも確かです。在宅医療を担う先生方はもちろんのこと、介護老人保健施設などの方々、地域包括支援センター、ケアマネージャーの方々にもさらなるご協力をお願いします。日頃患者さんを紹介いただいている皆様のお陰で、当院の昨年度の患者紹介率（表1）は74.0%、逆紹介率は57.1%にまで上昇、今年度4月には紹介率80%を達成し、適切な患者選択が行われてきているものと思います。



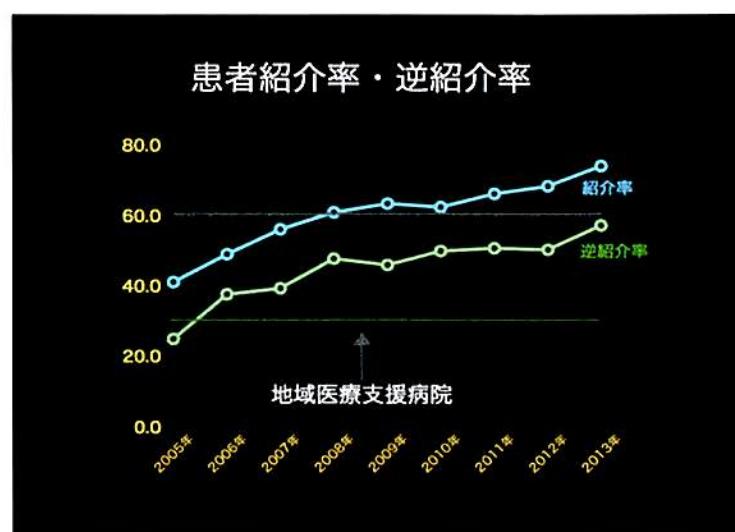
【いわき市立総合磐城共立病院 地域医療連携室】

電話 0246 (26) 2250 (直通) FAX 0246 (26) 2119
 URL <http://www.iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp>
 E-mail kyoritsu@iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp



地域医療連携室だより

表1



高度、急性期医療、第三次救急医療を担うことにより、当院の収支はここ2年で黒字に転じました。DPC病院となり診療報酬制度の改定があったこと、さらに原発事故に関わる損害賠償金などにより収益が大幅に改善したことなどのほか、SPDによる材料費のコントロール、新病院建設に向かっての職員の意識改革（赤字だと新病院は建設できない？）なども収支改善に寄与していると考えます。また鏡視下手術、種々の血管内治療（大血管ステントグラフト、PCI、PPI、脳動脈瘤コイル塞栓術など）といった高度先進医療技術の導入により在院日数は短縮しましたが、入院診療単価は一人一日あたり平均65,360円まで上昇、また外来化学療法の導入、外来での術前検査の促進、再来患者の逆紹介促進などにより外来診療単価も12,696円まで上昇し、収益増に貢献したものと思われます。

当院を取り巻く医療環境についてですが、人口110万人あたりの病院勤務医数（表2）は全国平均では147.7人、福島県では県北は医学部があるため全国平均ですが、その他の医療圏はいずれも全国平均以下であり、いわき市の勤務医数は78.1人とかなり少なくなっています。震災後、原発事故被災地域からいわき市に避難されている方々が2万4千人ほどいるために、実際の人口は震災前より増えて35万人以上となり、人口110万人あたりの勤務医数は全国平均の半分以下の73人程度であり、我々勤務医にかかる負担は大きいものがあります。

表2

This table provides data on the number of physicians per 100,000 population across different medical areas in Fukushima Prefecture. The data is presented in two formats: '人口10万人あたりの病院勤務医数' (number of physicians per 100,000 population) and '医師数' (total number of physicians).

医療圏	人口 ^a (千人)	医師数 ^b (人)	人口密度 (人/㎢)	病院数 ^c	病院勤務医 数 ^d (人)	医師数 ^e (人)	人口10万人 あたりの 病院勤務医数 ^f (人)
県 北	478.4	1,753	272.2	32	6,251	680	142.1
県 中	532.3	2,406	221.2	33	7,469	579	108.8
県 南	146.0	1,233	118.4	9	1,627	111	76.0
会 市	253.0	3,079	82.2	18	4,120	276	109.1
南会津	28.2	2,342	12.0	1	100	11	39.0
磐 木	180.0	1,735	103.8	8	1,546	77	42.8
いわき	327.8	1,231	266.2	27	4,890	256	78.1
全 県	1,847	13,682	141.8	126	28,003	1,980	102.2

人口10万人あたりの病院勤務医数は全国平均(147.7人)
a:人口は、総務省統計局「総務省統計月報」、b:医師数は、厚生労働省「医療機関等の登録簿」、c:病院数は、同上、d:病院勤務医数は、同上、e:医師数は、同上、f:人口10万人あたりの病院勤務医数

常勤医不在の診療科はたくさんあり、来年ようやく乳腺外科医が着任するめどが立ちましたが、その他の全くめどが立っていません。当院の内科医師数の推移（表3）を見ますと、大学医局入局者が多い循環器科は、その分派遣医も増え、この10年で1名増えており、世代交代もできていますが、ほかは軒並み人数を減らし、この10年間で13人減っています。

医師不足に対する有効な手立てはありませんが、まず臨床研修医、若手医師の確保が重要であることは間違いないと思います。正攻法ではありますが、関係大学医局への働きかけ、修学資金貸与制度の創設、学生実習の受け入れ、連携大学院、寄附講座などあらゆる手を使って医師確保を目指してきました。高次救急については日本医大をはじめとする、関連大学医局に医師の派遣をお願いし、一定の効果を上げていますが、常勤医が確保できないためセンター長初め救急部医師の負担はまだまだ軽減されていません。病院全体をあげて協力体制をとっていきたいと思っています。

表3

内科医師数の推移 (嘱託医含む)		
	平成16年1月1日	平成26年4月1日
消化器内科	14	9
循環器内科	8	9
呼吸器内科	2	1
血液内科	3	3
糖尿病・内分泌内科	4	2
腎・膠原病内科	3	0
神経内科	3	0
心療内科	1	1
合計	38	25

職員が安心して仕事に励めるようにと、ここ数年医療安全環境の整備に努めてきました。5年前から警察OBを雇用し、暴言暴力対策に一役買っていただいています。今年度からは二人体制とし、日勤帯だけでなく、準夜帯までをカバーできるようにいたしました。また、市民、地域医療機関への情報提供の不足がクレームの原因となっていることも多々あり、コミュニケーションの充実につとめているところです。また、市民公開講座など、市民への医療知識の啓蒙、病院情報の発信など、今まであまり積極的に行ってこなかった広報活動を充実させたいと考えています。

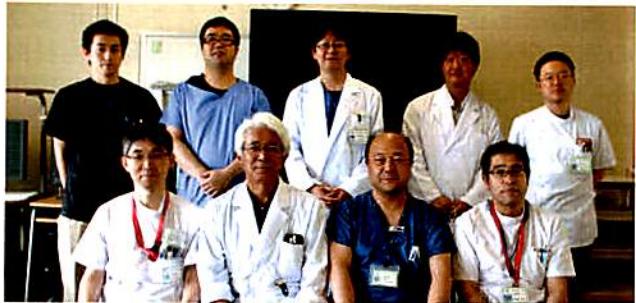
最後になりますが、現在3年後の竣工を目指して、新病院建設設計画が進行しています。病床数700、救命救急センターを備えた急性期高度先進医療を担う病院を目指していますが、東京オリンピックに連携した首都圏での建設需要の増大、人員不足、建築資材の価格高騰など、地方公共施設の建設には大きな向かい風があるようです。大きな困難に向かって職員が一致団結するよい機会と受け止めて、未来の医療者を育て、充実したチーム医療、地域医療が実現できる、よりよい病院を目指したいと思っています。

地域医療連携室だより

消化器内科

【スタッフ紹介】

役職	医師名	卒年	専門分野・その他
副院長	中山 晴夫	昭和55年	肝臓
主任部長	池谷 伸一	昭和60年	肝胆膵
部長	高橋 成一	平成2年	下部消化管 東北大学大学院医学系研究科「消化器地域医療医学講座」客員教授
部長	池田 智之	平成5年	肝胆膵
部長	大栗 尚弘	平成6年	上部消化管
科長	土佐 正規	平成12年	下部消化管
科長	伊藤 広通	平成14年	胆膵
医長	駒沢 大輔	平成21年	消化器全般
医師	岡本 大祐	平成23年	消化器全般



や緊急疾患への迅速な対処ができる体制を取っており、2010年5月には専門高度診療センターとして「炎症性腸疾患センター」、「肝炎対策センター」を設置し、地域における高度専門医療を担っています。

消化器内科のスタッフとしては上部消化管、下部消化管、肝疾患、胆膵疾患と各パートに指導的な人材を配置し、それぞれの専門的な最先端の手技を生かし、協力しあって日々診療に携わっております。

【特色】

当院は救命救急センターをもち、診療圏は福島県浜通りから茨城県北部と周辺地域をあわせると約50万人の診療圏をもつ高次機能病院であり、地域医療支援病院、福島県がん診療連携推進病院の指定を受けております。

当科も周辺医療機関が対応できないような高度医療

また2012年12月には、消化器疾患の研究・診療拠点として、これに従事する優れた専門医育成を行い、消化器疾患の制圧に向けた地域社会の要請に応える研究・教育活動を推進することを目指し、東北大学大学院医学系研究科と当院との間で連携講座「消化器地域医療医学講座」が設置されました。

治療が可能な施設の1つです。

循環器内科は、他の内科と同様に薬物療法が主体ではありますが、最近は全身の血管病変に対しての治療、さらに、不整脈治療や心不全治療にも様々なNew deviceが用いられるようになりました。

1. 冠動脈インターベンションは、年間約600例と症例数が多い施設の1つです。免疫抑制剤を用いた再狭窄抑制型薬剤溶出性ステント(DES)が用いられるようになり、従来のステントの再狭窄率(20~30%)に比べて、再狭窄率は5~10%程度と改善しています。またローターフレーティやエキシマレーザーによる治療も行っています。

2. 末梢血管インターベンションも、年間約300例と症例数は多く、2013年は国内でも第7位の症例数となりました。心血管治療センター長の山本部長を中心として下肢の閉塞性動脈硬化症や腎動脈狭窄等の血管病変に対してステントを積極的に使用し治療を行っています。歩行困難であった患者さんが歩いて外来通院可能となり、当科の得意とする分野です。

3. 不整脈治療の分野では、致死性不整脈に対する植込み型除細動器(ICD)植込みや頻脈性不整脈に対する高周波カテーテル心筋焼灼術といった非薬物治療を積極的に行ってています。昨年は心房再度を含む66例の高周波カテーテル心筋焼灼術を行いました。

4. 心不全治療の分野では、薬物療法のみではなく両室ペーシングによる心再同期療法(CRT)などといった非薬物的心不全治療も行っています。

以上のように、当科はいわき地域における循環器高度先進治療を主とした急性期治療を行っています。限られた医療資源の中で、かかりつけ医の先生と協力し、診療したいと考えています。外来診療は新患外来と再来外来を併設しています。なお、水曜日は不整脈専門外来としています。十分な対応や待ち時間減少のためにも、是非病診連携を通した事前のご予約・ご連絡をお願いいたします(救急患者さんを除きます)。

循環器内科

役職	医師名	卒年	専門分野・その他
副診療局長 主任部長	杉 正文	昭和60年	日本循環器学会認定循環器専門医 日本心血管インターベンション治療学会 専門医・指導医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本外科学会認定外科医・総合外専門医
部長 心血管治療センター長	山本 義人	昭和62年	日本循環器学会認定循環器専門医 日本心血管インターベンション治療学会 専門医・指導医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
部長	戸田 直	平成5年	日本循環器学会認定循環器専門医 日本不整脈学会および日本心電学会認定不整脈専門医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
科長	湊谷 豊	平成8年	日本循環器学会認定循環器専門医 日本心血管インターベンション治療学会専門医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
医長	高木 祐介	平成17年	日本内科学会認定内科医 日本心血管インターベンション治療学会認定医
医長	長谷部雄飛	平成18年	日本内科学会認定内科医
医長	塙 健一郎	平成19年	
医師	江口久美子	平成23年	
医師	野木 正道	平成23年	
非常勤	市原 利勝	(月)	

【診療紹介】

当科は昭和49年に心臓カテーテル検査を本格的に導入して以来約30年の歴史があり、東北地方の中でも、先駆的で実績ある診療科です。高度救命救急センターを併設しており、急性期から慢性期までの多くの患者さんを受け入れています。また、各種治療の施設基準の認定も受けしており、東北地方の中でも高度

血液内科

【スタッフ紹介】

役 職	医 師 名	卒 年	専門分野・その他
主任部長	濱崎 洋一	昭和63年	
部 長	齋 敏明	昭和58年	
科 長	阿久津和子	平成12年	

【特 色】

福島県浜通り地区の唯一の血液疾患専門診療科として、北は相双地区から南は茨城県北部までの広範な診療圏の患者を受け入れております。標準治療に加え最新治療を取り入れ、患者の幅広いニーズに対応しています。また、福島県での成人例としては初めての造血幹細胞移植治療として、平成4年に白血病に対する同種骨髓移植を、平成7年に悪性リンパ腫に対する自家末梢血幹細胞移植を施行し、その後年間数例の移植治療を行っています。

【外来診療】

月～金の午前。（月）阿久津、（火・金）齋、（水・木）濱崎が担当。

初めての受診の際は、地域の医療機関からの病診連携システムによる紹介・外来予約が望ましい。

【症例数・治療・成績】

年間の初診患者数はおおよそ、白血病30人、悪性リンパ腫40人、多発性骨髓腫20人、骨髓異形成症候群30人、各種貧血（鉄欠乏性貧血・再生不良性貧血・悪性貧血・溶血性貧血など）30人、血小板減少症20人、骨髓増殖性疾患（多血症・血小板增多症・骨髓線維症など）10人、出血凝固異常症10人などとなっております。

★白血病の治療はJALSG（日本白血病治療研究グループ）の治療に、悪性リンパ腫の治療はJCOP-LSG（日本悪性リンパ腫治療研究グループ）の治療に準じており、治療成績は、全国の主要施設と同等であります。症例の重症度に応じて造血幹細胞移植も実施しております。

★多発性骨髓腫や骨髓異形成症候群では高齢者が多く、QOLを重視した治療を行っております。

★近年の分子標的療法を積極的に取り入れ、各種疾患に投与し良好な結果が得られております。

【医療設備】

完全無菌室1床、準無菌室4床、簡易無菌室2床であるが、今後無菌病室を増設予定であります。化学療法に習熟した看護スタッフが対応し、種々の検査は迅速に行われております。

糖尿病・内分泌科

【スタッフ紹介】

役 職	医 師 名	卒 年	専門分野・その他
主任部長	小野 利夫	昭和56年	
科 長	薄井 正寛	平成15年	
非 常 勤	金田 史香		水、木

【診療紹介】

糖尿病・内分泌科は、糖尿病および内分泌疾患を中心診療しています。

糖尿病外来は月曜から金曜日までで、月・火は1名、水・木・金は2名（うち1名は応援医師で、水・木は金田先生、金は東北大学糖尿病代謝科の先生）で担当しています。

セカンドオピニオン希望は対応できる範囲で受け入れ可です。主治医指名はありません。初診時は予約が望ましい。

【特 色】

密度の濃い1週間の教育入院を実施しています。

外来では糖尿病療養指導士・薬剤師によるインスリン自己注射指導・血糖自己測定指導、管理栄養士による食事指導を隨時おこない患者さんの利便を図っています。インスリンは外来で導入することも多いです。

【症例数・治療・成績】

現在通院中の糖尿病患者数は約1,200名、平成24年の入院患者数は約470名。

インスリン分泌能・感受性を評価し、合併症（網膜症・腎症・神経症、脳・心臓・下肢血管の動脈硬化）の有無・程度を診断しながら治療を開始します。必要に応じて人工胰臓を用いてインスリン感受性を判定します。持続血糖測定装置（CGM）を用いて数日間血糖変動を観察し治療に役立てます。

眼科・循環器科・血管外科・形成外科・泌尿器科と連携を密にして治療効果を上げています。腎臓内科・神経内科は常勤医不在なので、透析は連携病院にて実施しています。また通院患者に生じた脳梗塞は当科にて診療します。腎疾患や内分泌疾患に伴う2次性糖尿病・内分泌性高血圧症・甲状腺・下垂体・副腎疾患も診療対象です。

糖尿病患者の会「みどり会」があり会員の交流・啓蒙をおこなっています。

医療設備：

CGM・インスリンポンプ・人工胰臓・MRI・CT・体成分分析装置・頸動脈エコー・腎血管エコー・脈波速度測定装置・加速度脈波測定装置・血管内皮機能検査・24時間血圧モニター・神経伝導速度測定装置・自律神経機能検査（心電図RR分析装置）・アブノモニター

心療内科

【スタッフ紹介】

役 職	医 師 名	卒 年	専門分野・その他
主任部長	岩橋 成寿	昭和59年	心身医学、内科学(一般)、緩和医療、温泉医学
臨 床 心 理 士	國井 啓子	昭和55年	心理検査 心理療法(カウンセリング、箱庭療法、家族療法、交流分析法、自律訓練法)

【スタッフ】

心療内科は、平成8年5月に筆者が赴任してから常勤医体制に復しました。現在のスタッフは、医師1名、臨床心理士1名、外来看護師1名（午前中）の3名です。

筆者の専門領域は、心身医学、内科学（一般）緩和医療、温泉医学で、所属学会は日本心身医学会（心身医療内科専門医）、日本内科学会（総合内科専門医）、日本緩和医療学会、日本サイコオンコロジー学会、日本うつ病学会、日本温泉気候物理医学会（温泉療法医）です。

國井啓子臨床心理士は、知能検査、発達検査、人格検査などの心理検査と、心理療法（カウンセリング、箱庭療法、家族療法、認知療法、交流分析法、自律訓練法）を担当しています。所属学会は、日本心理臨床学会、日本心身医学会、日本家族心理学会、日本サイコオンコロジー学会です。

鈴木利子看護師は、これまでに婦人科・小児科病棟、内科・外科・整形外科外来、内視鏡室を経て、平成22年4月から心療内科外来を担当しています。

呼吸器内科

【スタッフ紹介】

役 職	医 師 名	卒 年	専門分野・その他
医 師	大沼 菊夫	昭和52年	呼吸器感染症

【特色】

- 救急患者が多い病院なので、当科の入院患者にも呼吸不全例が多い。
- いわき市内で唯一結核病棟を維持している。

【診療内容】

対象疾患は、心身症（高血圧、過換気症候群、片頭痛、緊張型頭痛、過敏性腸症候群、機能性胃腸症、等）、不安障害、適応障害、身体表現性障害、身体疾患に伴ううつ病、癌患者の緩和医療、温泉療法を希望する患者です。

外来は、心身症の患者と、身体疾患のため当院に通院中の患者の、心理・精神的症状の診断と治療を担っています。入院治療は、神経性無食欲症の極期など、特に心身両面からの診療を要する患者に限って担当しています。また、他科入院患者のコンサルテーションにも応じており、毎週金曜日の午後は、当院の緩和ケアチーム回診に参加しています。

【今後の展望】

出身医局（東北大学病院心療内科）でも医局員不足が続いていること、残念ながら当院の心療内科医が増員される見込みは立っておりません。大学医局の人員に余裕ができましたら、定期的な応援医師の派遣を受けようと思っています。

診療においては、今後、2050年までがんによる死者数が増加し続けることが予測されており、緩和ケアにかかる業務が増加すると予想しています。

いわき市内の精神科病院ならびに精神科クリニックの先生方におかれましては、うつ病や精神病圈の患者の診療について、今後とも、これまで同様に連携およびご支援を宜しくお願い申し上げます。

【診療実績】

- スタッフが1名のみであり、肺癌の入院診療は不可能なので、福島労災病院呼吸器科などにお願いしている。
- 入院症例では、肺炎、気管支拡張症、肺結核、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎や好酸球性肺炎などのびまん性疾患が多い。
- 外来に福島県立医大呼吸器科の応援枠があり、びまん性肺疾患の外来診療をおこなっている。症例により福島県立医大の入院診療もおこなわれている。
- 外来に獨協医大呼吸器外科の応援枠があり、院内で見出された結節影・肺癌の診断をおこなっている。

小児内科

【院内スタッフ】

役 職	医 師 名	卒 年	専門分野・その他
主任部長	鈴木 潤	昭和57年	小児科一般(血液、アレルギー)
部 長	藤江 弘美	昭和62年	小児神経、小児科一般
部 長	鈴木保志朗	昭和63年	小児腎泌尿器、小児科一般
部 長	根本 照子	平成元年	発達障害、心身症、小児科一般
科 長	石井 まり	平成14年	小児アレルギー、小児科一般
医 長	音羽奈保美	平成20年	
医 長	島 彦仁	平成21年	
医 長	長尾 美香	平成22年	
医 長	塙 淳美	平成22年	

【外来非常勤医師】

役 職	医 師 名	卒 年	専門分野・その他
非 常 勤	森島 重弘	昭和63年	小児循環器 総合南東北病院
非 常 勤	吉原 康	昭和63年	小児内分泌 福島整肢療護園

【特 色】

当院小児内科は、いわき市を中心とする浜通り地区で唯一の入院治療が可能な病院小児科です。この地域で開業されている小児科医師、内科医師、また保健所や医師会と協力して

小児医療と小児保健を担っています。

スタッフ医師は専門あるいは準専門にしている分野に関して、自分たちで研鑽を積みながら、また大学附属病院小児科や各地の小児病院の専門医と協同しながら患児の対応に当たっています。当科に専門医がない分野（小児循環器、小児内分泌、小児血液・悪性腫瘍、小児リウマチなど）に関しては、他施設からの外来診療をお願いし、または当院での対応に限界がある場合には時機を逃さず適切な専門医のいる小児病院などに紹介しています。

当科救急センター、未熟児新生児科、小児外科その他小児に関連する外科系各科とともに協力して当院で対応可能な小児の疾患について外来・入院治療を含めて対応しています。

また当科では小児科臨床を行いながら、初期研修および小児科後期研修の研修医教育を行っております。現在は東北大學小児科の小児科研修プログラム“プログラム in 宮城”に関連病院として協力しており、小児によく見られるプライマリ疾患を学ぶ総合研修の場を提供しています。

さらに小児救急に対しては、いわき市が運営し医師会が協力している休日夜間診療所や、小児科医会が行っている休日当番医体制などと協力して、当院救急センターと連携しながら、主に入院加療が必要な2次、3次の小児救急を中心に関わっています。

前述の関連各科とともに「良質の小児医療」を提供して、子どもを育てやすいいわき市を目標に努力していきたいと思っています。

患児の状態に猶予があれば病診連携を介しての紹介が望ましいのですが、緊急を要する場合にはそのまま紹介いただく事も可能です。どうぞ協力をよろしくお願いいたします。

未熟児・新生児科

【スタッフ紹介】

役 職	医 師 名	卒 年	専門分野・その他
主任部長	本田 義信	昭和63年	
医 長	羽田謙太郎	平成19年	

【診療紹介】

未熟児・新生児科は、福島県浜通りから茨城県北部で唯一の地域周産期センターであり、地域の周産期医療の中心を担っています。小児科学会の施設基準では、AランクのNICUにあたり、治療成績は、全国平均を上回る実績を残しています。

軽症例から最重症例まで幅広い臨床例を診療し年間平均入院数は、約150例で内訳としては、院外出生児が半数、

人工呼吸管理症例は約50例、極低出生体重児以下の入院が約30例です。ある程度の経験の後に研修医も主治医となり、朝、夕2回全員でのカンファランスを行い、治療方針を確認しています。

常に最先端の治療の導入を心がけ、当科の治療水準維持のために、治療成績等学会発表をしています。貴重な症例も多数経験でき、研修医も含め地方会、全国学会に毎回発表しています。関係各科との連携もスムーズで産科とは毎週のカンファランスを行い、小児科・小児外科とは毎週1回の症例提示、抄読会、勉強会を行っております。これらは、新生児医療以外の知識の吸収にも役立っています。

また、集中治療のみでなくタッチケア・カンガルーケアを導入し、デベロップメントケア・ファミリーケアを充実させ、母乳育児を推進し母子関係を育て母子とともに医療関係者も育つことを心がけています。

小児外科

【スタッフ紹介】

役職	医師名	卒年	専門分野・その他
副診療局長 主任部長	神山 隆道	昭和58年	
部長	佐野 信行	平成3年	

【診療紹介】

小児外科は、福島県浜通り地方において中核となる小児外科の専門診療科で、現在、東北大学小児外科出身の小児外科専門医2名（うち指導医1名）が外来と病棟の診療に当たっています。

診療圏は、当地域のみならず南の県境を越えた茨城県北にも及び、年間の入院数は250例～300例、全身麻酔下手術数は200～250例にのぼります。

小児外科は、脳外科・心臓血管外科・整形外科・形成外科・眼科・耳鼻科・歯科の各領域を除く15歳以下の小児の外科的疾患を対象とする診療科であり、当科では、ソケイヘルニアと急性虫垂炎で、全症例の約半数を占めますが、このほかにも、新生児・乳幼児を問わず、消化器・呼吸器・泌尿器など多臓器にわたる疾患の手術を行っています。虫垂炎の平均在院日数は4日未満です。

産科・未熟児新生児科・小児科などの関連各科と、また院外では大学病院やこども病院などのより高次な専門施設と連携し、最新かつ最良の医療を患児が受けられるよう配慮しています。

当院は日本小児外科学会専門医認定施設であり、将来の小児外科医育成を目指していますが、さらに臨床研修病院として外科・小児科志望の初期研修医への教育も積極的に行ってています。

対象とするおもな疾患

症状	考えられる疾患
体表や皮下の腫瘍	各種良性腫瘍
耳介周囲の異常	副耳、先天性縁孔
前胸部の陥凹	漏斗胸
ミルク嘔吐	胃食道逆流症、肥厚性幽門狭窄症、胃軸捻転
黄疸や灰白便	胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症
臍の膨隆	臍ヘルニア（いわゆる「出ベそ」）
臍の発赤や湿潤	臍肉芽腫、臍腸管遺残、尿膜管遺残
便秘	ヒルシュブルング病、慢性便秘症
血便	腸重積症、メッケル憩室、腸管ポリープ
肛門出血	裂肛、痔核
肛門の形や位置の異常	直腸肛門奇形（鎖肛）
肛門周囲の発赤、腫脹、排膿	肛門周囲膿瘍（痔瘻）
ソケイ部の膨隆や陰嚢の無痛性腫大	ソケイヘルニア（いわゆる「脱腸」）、陰嚢水腫
陰嚢の空虚	停留精巣、移動性精巣、精巣萎縮・消失
陰嚢の発赤、有痛性腫大	精巣上体炎、精巣捻転、精巣垂捻転
外尿道口の異常	尿道下裂、傍外尿道口囊胞
包皮の翻転不能、発赤	包茎、包皮炎
その他	新生児外科疾患、急性虫垂炎、卵巣嚢腫、胸・胸部打撲など

【診療内容】

- ・消化管（胸部食道～肛門）の良性or悪性腫瘍
- ・肝胆脾の良性 or 悪性腫瘍
- ・乳腺疾患、甲状腺疾患、腹部外傷、ヘルニア

【診療実績】

2013年手術件数	
総 数	757件
胃・十二指腸	78件
大 腸	133件
虫 垂 炎 手 術	74件
肝 切 除 術	8件
胆 囊 摘 出 術	212件
ヘルニア根治術	127件
乳 癌 手 術	27件

治療成績（悪性疾患5年生存率）

- ・胃癌（StageIA=98.7%、但し、他病死、事故死を除きます。）
- ・結腸癌（Dukes A : 91.6%）
- ・直腸癌（Dukes A : 88.9%）

【スタッフ紹介】

役職	医師名	卒年	専門分野・その他
院長	新谷 史明	昭和53年	消化器外科（胆道・食道）
主任部長	川口 信哉	昭和61年	消化器外科（上部消化管・脾臓）
部長	阿部 道夫	昭和55年	外科（癌化学療法）
部長	小川 仁	平成4年	消化器外科（炎症性腸疾患・下部消化管）
部長	橋本 明彦	平成5年	消化器外科（炎症性腸疾患・下部消化管）
科長	白相 悟	平成10年	消化器外科（上部消化管・肝臓）
科長	金子 直征	平成14年	消化器外科
科長	三浦 孝之	平成16年	消化器外科
医師	溝渕 大騎	平成22年	後期研修医
医師	伊勢 一郎	平成23年	後期研修医
医師	九里 孝雄	昭和44年	甲状腺
外来非常勤	根本 紀子	平成14年	乳腺
外来非常勤	宮下 穂	平成15年	乳腺

形成外科

[スタッフ紹介]

役職	医師名	卒年	専門分野・その他
主任部長	檜垣 仁志	昭和59年	形成外科全般 形成外科学会専門医 皮膚腫瘍外科指導専門医
科長	薄葉 千絵	平成16年	形成外科全般形成 外科学会専門医
医長	笠井 丈博	平成19年	形成外科全般
医長	江藤 純乃	平成20年	形成外科全般
医長	藤田 悠氣	平成22年	形成外科全般

[特色]

地域に形成外科常勤医がいる病院は当院のみであるということもあり、形成外科全般の診療を行っておりまます。ただし病院の性格上、純粹な美容外科は行っておりません。またレーザーは施設がないため他院を紹介しております。

取り扱う主な疾患、外傷は以下の通りです。

熱傷：全身管理を要する重傷熱傷も含む
 顔面外傷：軟部組織損傷、顔面骨骨折
 その他の外傷：上肢、下肢、体幹等の外傷、また外傷による組織欠損
 先天異常：唇裂、口蓋裂、頭部・顔面の先天異常、四肢その他の先天異常
 良性腫瘍：母斑、血管腫他
 悪性腫瘍：皮膚悪性腫瘍、軟部組織悪性腫瘍、悪性腫瘍切除後の再建（他科の再建も）
 瘢痕：瘢痕拘縮、ケロイド
 難治性潰瘍：褥瘡、その他の潰瘍
 炎症変性疾患：蜂窩織炎
 美容：美容手術後のトラブル、刺青
 その他：透析用内シャント

脳神経外科

[スタッフ紹介]

役職	医師名	卒年	専門分野・その他
副院長	増山 祥二	昭和55年	脳神経外科全般 (特に脳腫瘍)
主任部長	鈴木 保宏	平成6年	脳神経外科全般 (特に脳血管障害)
科長	井上 智夫	平成15年	脳神経外科全般
医長	荻田 庄吾	平成19年	脳神経外科全般

[特色]

当科は、主に東北大学の脳神経外科教室からの数多くの先生方の応援を得て、福島県浜通り中部から茨城県北部にかけての頭部外傷・脳血管障害（主として出血性疾患）をはじめとした急性期医療を担い、日本脳神経外科学会認定の専門医指定訓練施設（A項）として活動しています。現在は4名で診療を行っています。外来は月・水・金曜日の午前で、午後は検査、火・木曜日は手術となっています。しかし、当科疾患の特殊性から、救急患者は特殊事情がない限り、救急医療部と連携をとりながら時間外でも診療を行っております。

主として急性期の外科的治療を行っておりますので、亜急性期あるいは慢性期になった患者さんは、リハビリ

テーション施設や長期療養型病院への転院を積極的に進めさせていただいております。

以下に当科で扱う主な疾患の概略を記します。

1. 脳血管障害：
くも膜下出血・高血圧性脳内出血など、主に出血性脳血管障害を当科で受け持っております。
2. 脳腫瘍：
代表的なものとして神経膠腫・骨髓腫・聴神経腫瘍・下垂体腺腫などがあります。腫瘍の種類や状態を十分に検討し、手術による摘出を行ったり、放射線療法や化学療法を行ったりします。脳腫瘍で最も多い神経膠腫に対しては、手術療法に引き続いて放射線化学療法を行います。
3. 頭部外傷：
当院は救命救急センターが併設され、救急専門医が初療もあり、多発外傷に関しては各科の専門医も診療を行います。頭部外傷がメインの場合、当科で治療を行っております。
4. 小児の脳疾患：
当科での小児の先天奇形などの治療も一部行っていますが、小児脳疾患はかなり特殊なものであるため、大部分の患者さんはその専門病院（みやぎ県立こども病院・仙台）に紹介し、治療を依頼しております。
5. 機能的脳疾患：
三叉神経痛と顔面けいれんが挙げられます。神経と血管を離してあげる手術をすることで非常に高い頻度で治療効果が得られます。

地域医療連携室だより

心臓血管外科



【スタッフ紹介】

役職	医師名	卒年	専門分野・その他
主任部長 小切開心臓手術- 大動脈ステントグラフト センター長	近藤 俊一	平成2年	成人心臓血管外科(冠動脈バイパス手術(心拍動下含む)、心臓弁膜症手術(弁形成手術人工弁置換手術)、胸部大動脈瘤手術(ステントグラフトも可能)、腹部大動脈瘤手術(ステントグラフトも可能)、末梢血管手術など)ペースメーカー関連手術(植込み型除細動器、心室再同期療法)
部長	入江 嘉仁	昭和60年	虚血性心疾患(オフポンプ、心拍動下手術)、大血管手術(胸腹部大動脈全置換術・ステントグラフト治療)、後天性心疾患(弁膜症・不整脈手術)、部分胸骨切開心臓手術(MICS)、呼吸器外科(肺癌・痰癌腫瘍・自然気胸)、下肢静脈瘤治療
部長	六角 丘	平成4年	大動脈外科、ステントグラフト手術、末梢血管手術
科長	坪井 栄俊	平成15年	成人心臓血管外科

整形外科

【スタッフ紹介】

役職	医師名	卒年	専門分野・その他
診療局長	相澤 利武	昭和58年	肩、股 月・水・金(午後、予約外来)
主任部長	笹島 功一	昭和60年	足、外傷、骨折 月・水
部長 肘関節センター長	安永 亨	平成2年	膝、スポーツ障害 月(午後)、水、金
科長	菅野 敦子	平成10年	肩 水、金
科長	大森 康司	平成12年	外傷、股 月、金
科長	齊藤 秀雄	平成13年	外傷 水
科長	関根 拓未	平成16年	脊椎
非常勤	牛来 彩子	平成16年	外傷、骨折 月

【診療科紹介】

当院整形外科は1972年、田畠四郎先生（前々院長）の赴任により開設され、その後、多くの医師の参加を経て現在にいたっております。

整形外科の診療は、脊椎（頸椎～腰椎）、関節（肩、肘、手、

【当科の歴史・特色】

当院は、浜通り唯一の心臓血管外科チームとして、福島県内ばかりでなく、茨城県北部も含め50万人以上の医療圏を支えております。

いわきの心臓血管外科の歴史は、昭和49年に磐城共立病院（東北大大学胸部外科）から始まりました。その後しばらく、順調な成長をとげ、県内一、二の症例数を誇っておりました。昭和60年頃、内部事情から手術を休止し、平成4年東京女子医大から医師の派遣を受けて心臓手術を再開しました。しばらくの間順調に手術をこなししておりましたが、平成18年心臓外科医が1名のみとなり、緊急手術に対応出来なくなりました。このような歴史的背景があり“いわきでは心臓・大血管手術はできない”が市民ばかりでなく、開業医の先生方にも深く浸透する結果となっていました。

その、循環器救急の危機を回避すべく、2008年7月より、現主任部長が着任せし緊急手術を再開しました。当初年間50例前後の心臓・胸部大血管手術でしたが、次第に増加し、2013年は、197例の手術をこなし、福島県内随一の症例数となりました。

現在当科では、心臓移植以外のほぼすべての成人心臓大血管手術をわずか4人の心臓血管外科医で、高いレベルで実施しております。

【最新医療技術】

大動脈治療においては、いち早く血管内治療である、ステントグラフト治療を導入し、全国レベルでリーダー的なポジションにあり、4人すべてが指導医資格を有しています。また、一般病院では、困難と言われている胸腹部大動脈人工血管置換手術も開胸・開腹アプローチでも、血管内治療でも実地する事が出来ます。

心臓手術においては、通常の開胸手術ばかりでなく、右小開胸アプローチによる弁手術を東日本で先駆けて実施し、その分野でも大きくなりードしています。さらにそれらの技術を応用した、カテーテル大動脈弁置換手術(TAVI)の実施にも取り組み、2014年5月県内最初、東北で4施設目の施設として認可されました。8月上旬には実際に手術を開始出来る見込みです。

【最新鋭のハイブリッド手術室】

2013年5月に国内最新鋭の放射線透視装置を装備した手術室（ハイブリッド手術室）が完成致しました。先述の、最先端の心臓大血管手術を安全確実に実施するには必要不可欠な施設です。

股、膝、足)、外傷(骨折、腱、靭帯損傷など)、末梢神経など多岐にわたりますが、これらに対して当科では主に手術的治療を行っております。多発外傷など救急の全身管理が必要な症例には救急救命科に、血管、末梢神経損傷、再接着などは形成外科に対応していただいております。骨軟部悪性腫瘍については高度な対応が必要となるため、診断までは当科で行いその後専門病院に紹介しております。

現在8名のスタッフで専門分野を分けて診療にあたっており、その専門分野と外来日を表に示します。火曜日と木曜日は手術のため、当番医の対応となります。休日・夜間は、救急外来より必要に応じ連絡を受けて対応しております。

当科での手術の特徴は、専門医により、多くの関節の関節鏡による手術、人工関節手術(股、膝、肩関節)が行われていると同時に、地域の三次救急を担うべく四肢脊椎外傷の緊急手術が行われているところです。日常生活の質を大きく改善する人工関節手術は質、量とも全国的にトップレベルにあり、特に肩の人工関節は最先端の治療が始まりました。四肢脊椎外傷による緊急手術では院内の麻酔科をはじめ複数の科に支援を受けており、術後のリハビリテーションに関しては、地域の多くの病院にご協力をいただいております。

当科では多くの手術に対応するため、入院期間の短縮をめざして、短期入院制度や代表的疾患のクリニカルパスを導入しております。

今後も当科の特徴を生かして地域医療に貢献していきたいと考えております。

眼 科

【スタッフ紹介】

役 職	医 師 名	卒 年	専門分野・その他
主任科長	大浪 英之	平成14年	網膜硝子体
医 長	國分 太貴	平成22年	

【特 色】

当科では、本年より2人体制となり失明原因上位の糖尿病網膜症、加齢黄斑変性などの内科的、外科的治療に力を入れています。

また当院はNICU（新生児集中治療室）を有することから、未熟児網膜症の管理・治療も行っています。

耳鼻咽喉科

【スタッフ紹介】

役 職	医 師 名	卒 年	専門分野・その他
主任科長	牛来 茂樹	平成9年	耳鼻咽喉科全般
科 長	館田 豊	平成16年	耳鼻咽喉科全般
科 長	大越 明	平成16年	耳鼻咽喉科全般
医 長	原 陽介	平成21年	耳鼻咽喉科全般

【特 色】

耳鼻咽喉科は、昭和36年9月1日に設置され、現在、常勤医師と東北大学病院からの外来・手術応援医師で診療にあたっております。

耳鼻咽喉・頭頸部外科領域の炎症、腫瘍、外傷、異物など幅広い疾患に対応しております。

一般外来は、月曜日から金曜日の午前中のみとしております。

月曜日午後は予約制による腫瘍外来、火曜日午後は予約制による頭頸部超音波外来、木曜日午後は予約制による小児のための学童外来を行っております。

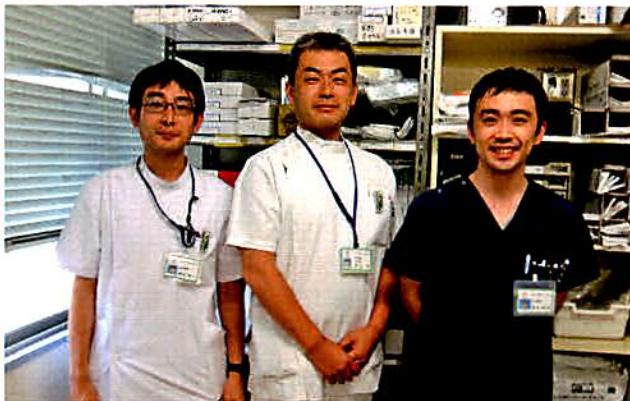
手術は、月曜日の午前、水曜日および金曜日の午前と午後に行っております。

【耳鼻咽喉科疾患】

- 1) めまい
めまい患者の眼振を赤外線眼振鏡を積極的に使用することで、詳細な眼振評価が可能になりました。また、平衡検査一式を行うことが可能です。
- 2) 中耳疾患
小児の急性中耳炎反復、難治の場合、鼓膜チューブの留置を考慮します。
真珠腫性中耳炎に対しては、外来での保存的治療の無効な症例では鼓室形成手術を行います。
鼓膜穿孔例は耳管機能を評価し、手術適応があれば鼓膜穿孔閉鎖手術を行います。
- 3) 扁桃炎、いびき
口蓋扁桃の肥大、アデノイド増殖によるいびき、無呼吸（睡眠時無呼吸症）では、睡眠時の呼吸状況を検査にて評価し手術治療を考慮します。
扁桃炎の反復する場合も、手術で口蓋扁桃やアデノイドの切除治療を行っています。
- 4) 嘸下障害
耳鼻咽喉科領域（口、のど、頸部）手術の有無を問わず、嚨下障害のある患者さんを、リハビリテーション室と共同で嚨下機能検査を行い評価し、嚨下訓練や手術治療を行っています。
- 5) 副鼻腔炎
慢性副鼻腔炎（蓄膿症）に対しては程度によって抗生素などの内服治療（保存的治療）をまず行います。無効な場合には内視鏡下鼻内手術（ESS）を行い、手術後に内服治療を一定期間行うことで良好な経過を得ています。
また、小児の慢性副鼻腔炎に対しても、保存的治療が無効な症例では内視鏡下鼻内手術を行っております。
- 6) アレルギー性鼻炎
重度のアレルギー性鼻炎に対しては、内視鏡下に後鼻神経を切断する手術を行うことで鼻アレルギー症状の改善を得ています。
この手術によって、花粉症症状の軽減が可能です。
また時間的制限から、入院治療のできない患者さんには日帰りで、外来にて鼻レーザー治療を行っております。
患者さんのアレルギーの程度によって個人差はありますが、長期間通年性鼻アレルギーや花粉症の症状軽減が得ることができます。
- 7) 悪性腫瘍
耳鼻咽喉科が中心になって治療している癌には、耳の癌（外耳道がん、中耳がん）、口の癌（舌がん、頬粘膜がん、歯肉がん、口腔底がん）、のどの癌（咽頭がん、喉頭がん）、鼻の癌（上顎洞がん、鼻腔がん）、頸部の癌（甲状腺がん、頸下腺がん、耳下腺がん）などがあります。
首のリンパ節のがん（悪性リンパ腫など）は耳鼻科で手術（リンパ節摘出）を行い、確定診断をつけた後に、治療を血液内科に依頼する形になります。
頭頸部領域の悪性腫瘍に対しては、手術治療だけではなく、機能温存を目的として積極的に放射線および化学療法を行っております。
喉頭癌では放射線と抗がん剤を組み合わせた治療によって、手術をせずに、喉頭温存を図っています。
進行した癌の症例では、形成外科および外科と共同で遊離皮弁を用いた再建手術を行っています。
下咽頭癌での咽頭食摂手術の遊離空腸再建手術、舌がんや鼻副鼻腔悪性腫瘍への前腕皮弁再建手術などがあります。

地域医療連携室だより

泌尿器科



【スタッフ紹介】

役 職	医 師 名	卒 年	専門分野・その他
主任部長	徳山 聰	平成2年	泌尿器科全般、尿路悪性腫瘍
科 長	嶋田 修一	平成15年	泌尿器科全般、尿路悪性腫瘍
医 長	藤井 紳司	平成18年	泌尿器科全般

【診療紹介】

泌尿器科は開設当初は一名で診療を開始し、東北大大学泌尿器科のサポートにより、二人体制、三人体制と増員されました。一時期、減員となった時期もありましたが、現在は泌尿器科学会指導医、専門医による三人体制で診療に当たっております。

外来日は、火、水、木、金（午前、予約制）検査は火、木、金（午後）、手術は月（午前午後）水（午後）という週間スケジュールとしており、時間外、救急の患者さんには救命センターと連携のうえで対応しております。

診療領域は尿路および後腹膜の悪性腫瘍、尿路結石症、尿路感染症、尿路通過障害、排尿障害、先天性疾患（尿路奇形など）女性泌尿器科（腹圧性尿失禁、骨盤内臟器脱など）、性機能障害と多岐にわたっております。そのうち、悪性腫瘍、尿路結石症、排尿障害（前立腺肥大症、神経因性膀胱など）の占める割合が高くなっています。

手術に関しては、開放手術、内視鏡手術に加え、内視鏡補助小切開手術をおこなっており、条件を整備し腹腔鏡手術も取り入れていく方針です。結石治療に関しては、体外衝撃波結石破碎装置を導入しており、軟性尿管鏡、レーザーを用いたf-TULも積極的にを行い、残石のない治療を目指しております。最新の治療設備を早期に導入するのではなく困難ではありますが、市内の病院の泌尿器科とも連携し、患者さんに対するストレスの少ない治療を行っていきたいと考えています。

高齢化社会を迎えるにあたり、泌尿器科においても、これまで以上に、ご高齢の方の診療に携わる機会が多くなっております。いかに治療効果を上げるか？一方で、いかに患者さんのQOLを保つか？という永遠のテーマに向き合う毎日です。泌尿器科は、排尿に関する疾患を扱うため、もとより患者さんのQOLに深く関わる部門でありましたが、今後も、全人的な診療を目指し、市内の各病院、開業医の先生方、院内各科、大学病院と連携を密にし問題に取り組んでいく所存です。

産婦人科

【スタッフ紹介】

役 職	医 師 名	専門分野・その他
主 任 部 長	三瓶 稔	
県 立 医 大 地 域 産 婦 人 科 支 援 講 座 教 授 副 診 療 局 長	本多つよし	
科 長	金杉 優	
県 立 医 大 地 域 産 婦 人 科 支 援 講 座 講 師	西山 浩	
医 師	草野 良一	
医 師	清水 健伸	

【診療科紹介】

日本の産婦人科医療全体を見渡したとき、危機的状況といわざるを得ません。これは産婦人科医の減少、特に産科医に関しては顕著で、全国で約3,000人が不足しているといわれております。これは、医事紛争・医療訴訟の増加、刑事司法の医療現場への介入の問題と相俟って、分娩取り扱い医療機関の減少に拍車をかけております。新医師臨床研修制度による二次医療施設の勤務医の減少も起きており、したがって、産婦人科医、特に勤務医の労働環境は悪化の一途をたどっていると言えます。

いわき市立総合磐城共立病院の医師勤務案内の概要の中の基本方針には、

1. 浜通り地区の中核病院としての役割を担います。
2. 地域と連携し、高度医療、先進医療、救急医療の充実に努めます。
3. 明日を担う医療従事者を育成します。
4. 患者さんと職員との信頼関係を築くことに努めます。

5. 安全で安心な医療を提供するため「チーム医療」を実践します。
6. 自治体病院として良質な医療の提供と健全経営に努めます。

とありました。

患者さんの住所を拝見しておりますと、1. の意味が良くわかります。

特に相双地区からの患者さんは非常に多く、また、重症化の傾向にあります。

浜通りにはいくつかの中規模病院が存在し、それぞれの任に当たっておりますが、福島県としては浜通りを一つの地域と考え、その中心に当院を当てているようで、当科としても現時点でいわき市以外の地域からの患者さんの受け入れは如何とも難しいものがあると考えております。さらには、NICUとも関連がありますが、地域周産期母子センターの指定を受けている関係で県内からの母体搬送の受け入れもあります。以上のこととは、我々が就任直後からの緊急課題でしたが、関係各位の方々のご理解とご協力で何とかなっている状況です。

2. につきましては1. とも関連いたしますが、特にいわき市内の先生方からのご要望につきましては100%受け入れることとしております。そのため、絶えず、2名がオンコールの状態で待機しておりますし、必要に応じて全員で事に当たることもしばしばです。

4. につきましては院内に産婦人科診療など運営連絡会を設け、共立病院産婦人科としての質の向上を図るべく会議を重ねているところであり、今後の活動に期待しております。

5. の「チーム医療」につきましては、平成19年の4月に5人が集まった際にはお互いの性格や技術がなかなかわからないことから渾沌としておりましたが、最近では、お互いに解りあえて仕事がスムーズに行われるようになってきました。今後、さらにチームワークを良くし、あらゆることに全力で当たって行きたいと思っております。

6. については、地域における性感染症や子宮頸癌の発生頻度を抜きにしては語れません。いわき市の地域医療を進める上で肝要なことは、他の地域との疾患の相違を見つけることであります。いわきには上記疾患が多い。我々は何をすべきか？第一に予防のために啓蒙活動をすることを考えます。これは、以前より行ってきたことで、今後も続けていきたいと思っていることです。また、健全経営に関しては、共立病院の産科医療の現状は、機器の老朽化や人手不足、過重労働が顕著であり、そのためには、分娩介助料について見直していく必要があると考えています。

放射線科

【スタッフ紹介】

役職	医師名	卒年	専門分野・その他
主任部長	清野 修	昭和63年	放射線画像診断



【診療紹介】

平成11年9月、(旧) 放射線科から放射線診断部門が独立し、放射線画像診断科が新設されました。平成14年4

月からは福島医大より常勤医が着任し、現在は平成19年4月に着任した常勤医1名と市内の非常勤の専門医の協力体制で運営されています。

当院は診断用として平成20年3月と平成25年3月にそれぞれ導入された静磁場強度1.5T MRI(磁気共鳴画像診断装置)計2台、ヘリカルCT(X線コンピュータ断層撮影装置)計4台、RI(ラジオアイソトープ)診断用ガンマカメラ1台を有しており、浜通り地方ではもっとも充実した放射線診断の設備を備える総合病院です。特にCTに関しては、最新鋭の320列MDCT(多列検出器型CT)が平成25年6月に導入され、CTによる高速な心臓冠動脈撮影とその診断が可能となりました。また電子カルテの導入に伴い平成21年3月からは本格的なPACS(画像保存・通信システム)による画像情報の統一的な管理を行えるようになり、同年7月にはほぼすべての分野でフィルムレスへ移行しましたので、原則としてCD-R等によるDICOM(デジタル医用画像と通信)画像データの提供を行っております。

ご紹介いただいた症例についてはご希望に応じて専門医がレポートを作成し、速やかにご返答させていただきます。

麻酔科



【スタッフ紹介】

役職	医師名	卒年	専門分野・その他
主任部長	矢内 裕宗	昭和60年	麻酔指導医、救急専門医
科長	若原 志保	平成12年	麻酔専門医、集中治療専門医
科長	高橋 裕也	平成13年	内科認定医、消化器専門医
医師	八木下 健	平成20年	歯科麻酔認定医
医師	助川 絵美	平成22年	歯科麻酔認定医
医師	本田 潤	平成23年	

【特色】

- ・外科系のほぼすべての診療科があるため、各種の麻酔を経験できる。
- ・外来は月～木曜日までは術前診察、金曜日はペインクリニック外来を行っている。
- ・緩和ケア医療へ参加し、各種の神経ブロック等を行っている。
- ・麻酔科管理症例数が多い割には麻酔科スタッフが不足している。

【診療実績】

1) 麻酔科 手術麻酔 管理症例数	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年
全手術件数	5,423	4,766	5,122	5,210
麻酔科全症例数	3,444	3,463	3,524	3,598
定期手術麻酔	2,537	2,245	2,580	2,555
臨時手術麻酔	309	304	380	399
緊急手術麻酔	598	614	563	644

2) 麻酔法別 症例数	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年
全身麻酔	3,202	2,929	3,198	3,232
脊髄くも膜下麻酔	134	121	152	134
硬膜外麻酔	2	3	2	4
CSE(脊麻+硬麻)	105	111	169	224
伝達麻酔(局麻)	0	0	3	3
その他	1	2	0	0

地域医療連携室だより

歯科口腔外科

【スタッフ紹介】

役職	医師名	卒年	専門分野・その他
主任部長	内藤 博之	昭和62年	日本口腔外科学会専門医・指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医(歯科口腔外科)
医長	佐藤 浩子	平成18年	日本口腔外科学会認定医
医長	傅田 祐也	平成19年	日本口腔外科学会認定医
医師	須田 寛美	平成25年	初期臨床研修歯科医師
医師	川崎力オル	平成26年	初期臨床研修歯科医師

【特色】

いわき市立総合磐城共立病院歯科は1956年9月に創設され、1979年4月に歯科口腔外科へと改称しました。いわき市を中心として、浜通り地区や近隣市町村から多くの口腔外科の疾患の患者さまが受診されています。いわき市歯科医師会、いわき市医師会などのご協力により、スムーズな地域医療連携が行われています。学会および近隣の歯科医師会等の勉強会・講演会などへも積極的に参加し、地域医療にフィードバックするよう心がけています。

【対象疾患】

歯牙う蝕や歯周炎から波及した細菌感染症（歯性感染症）、口腔顎頤頭領域の骨折などの外傷、囊胞性疾患や腫瘍、口腔粘膜疾患、頸関節症などの疾患が多くをしめています。抗凝固療法を受けている方や循環器疾患、血液疾患、悪性腫瘍を有する方などへの治療も行っております。

なお、当科での治療終了後は、必要に応じてかかりつけ医や紹介医に歯科治療（う蝕、義歯など）のご依頼をしています。

①抗凝固療法中の方

観血的治療前に抗凝固療法を中断した場合、脳梗塞などを惹き起すリスクが高いことは周知となっています。このため当科でも抜歯等の小手術は抗凝固療法を継続した状態で施行しています。

②BMA (bone modifying agents) を使用中の方

BMA（ビスマスフォスフォネート製剤・テノスマフ）による顎骨に対する副作用が話題となっています。当該薬剤の使用前・使用中の患者さ

まが医科、歯科を問わずご紹介されています。抜歯のメリット・デメリットをご説明し、適切な治療を行っています。

③周術期口腔機能管理

悪性腫瘍などにおける周術期、または悪性腫瘍における抗癌剤治療や放射線療法の期間中に口腔内衛生状態を良好に保つことは感染症などの合併症の軽減につながります。当科では積極的に口腔ケアを行っております。歯牙状態不良である場合は速やかに抜歯を行います。

【外来診療】

午前は処置の伴わない診療を行い、午後は外来小手術（主に抜歯手術、囊胞摘出手術など）を行っています。地域医療連携室経由で手術枠を予約いただいた場合、特殊例を除き予約当日に小手術を行うことが可能です。その他の場合は初診当日は外科的処置を行っておりません。ただし急を要する場合はこの限りではありません。

外来では常に定員以上の予約が入っており、予約時間通りの診療は困難な現状です。また外来小手術におきましても待機されている方が多いため、施術日まで2ヶ月ほどお待ちいただいております。ご理解とご協力をお願いします。

【入院診療】

侵襲度の高い手術が必要な方、治療に恐怖心が強い方、術後出血が予想される方などに入院いただき、必要に応じて全身麻酔、鎮静などのもとで手術を行います。

口蓋悪性腫瘍の治療については、特に高度進展例に対する広範切除を要する場合は形成外科の協力を得て、顎微鏡下血管吻合を用いた遊離組織移植による再建手術を行い、術後のQOLを高めるように努めています。

【診療実績】

2012年の統計で全身麻酔手術が133例、入院局所麻酔手術が55例、入院手術症例は計188例となっています。その他手術を伴わない症例を含めると、入院は計229例となります。

外来での小手術は約1,800例、また周術期の患者さまなどへの口腔ケアは319件でした。

入院手術症例（2012年）	
顎 面 外 傷 手 術	13例
感 染 症 消 炎 手 術	18例
顎 骨 囊 胞 等 手 術	48例
顎 口 腔 良 性 腫 瘤 手 術	19例
顎 口 腔 悪 性 腫 瘤 手 術	23例
奇 形 等 手 術	5例
抜 歯 等 手 術	62例
計	188例
内 局所麻酔手術	55例

つ」や認知症のために意欲がなくなっていてれば、術後のリハビリテーションに支障をきたし、術前の生活リズムを取り戻すために時間がかかるといったことが生じるからです。

治療法には、カウンセリング、精神療法、認知療法、生活指導、家族指導などの非薬物療法と薬物療法があります。後者は、新規治療薬の開発にともなって、以前は難治で治療抵抗性であった症状でも治療可能となっているものがあります。

睡眠障害、不安障害、うつ病、双極性障害、統合失調症、自閉症・AD / HD・アスペルガー障害・学習障害などの発達障害、てんかん、アルツハイマー型認知症のいずれに対しても、近年新しい治療法が開発され、治療成績や患者様の生活の質を向上させています。当院では、身体疾患で入院中の患者様がこころの治療を開始し、また他の医療機関において適切な治療を受けられるよう橋渡しを行うことにより、患者様がこころの健康を回復・維持できるよう治療・支援します。

一つの特色として、当院に存在する浜通り唯一の救命救急センター経由で入院された自殺未遂の患者様のこころの治療があります。自殺未遂に至った「こころ」の問題について、患者様ご自身が分かりやすく整理して、繰り返さなくて済むことを目標に治療します。カウンセリング、薬物療法だけでなく、ご家族、友人、職場、地域社会との関係で可能な環境調整をはかり、追い詰められた気持ちや状況から、楽になれるよう、医師と、看護師・医療ソーシャルワーカー・精神保健福祉士・臨床心理士などのコメディカルからなるチームで、多面的な支援を行います。

精神科

【スタッフ紹介】

役職	医師名	卒年	専門分野・その他
主任部長	池本 桂子	昭和60年	臨床精神医学、睡眠医療、ストレス関連障害、神経病理学

【特色】

2010年8月に新設され、入院中の患者様の「こころ」の診療を担当しています。リエゾンコンサルテーションによる医療を行っており、院内では「リエゾン科」と称しています。入院中の患者様は、体の不調だけでなく、こころの不調の問題を抱えることが多いので、その際、担当医からの依頼を受けて、当科の医師と専門職スタッフが各病棟へ出向きます。不眠、不安、うつ、不適応、物忘れ、意識障害、せん妄、幻覚妄想、躁、落ちつきのなさ、手術後のこころの不調、悪性腫瘍に対する緩和医療などが対象となっています。また、すでに他の医療機関で「こころ」の治療中の患者様の身体疾患、こころの病気ゆえの自傷・自殺企図などが原因の入院の際のこころの診療を行います。

こころの病気を正確に診断し、的確な治療を行うことは、身体疾患の治療という観点からは非常に重要です。たとえば、「う

病 理 科

【スタッフ紹介】

項目	内 容
医 師 名	浅野重之（昭和49年卒） 主任部長（副院長兼医療技術部長） 福島県立医科大学臨床教授
専 門 分 野	人体（外科）病理、血液病理、 反応性リンパ節炎、有機水銀中毒
主な所属学会	日本病理学会、日本臨床分子形態学会 日本臨床細胞学会 日本リンパ網内系学会
著 書	基礎からわかる病理学（ナツメ社）2011年発行
最近掲載の論文	① Virchows Archiv(2012),460:651-658. ② J Clin Exp Hematopathology(2012),52:1-16. ③ Virchows Archiv(2014),469:95-103

認定病理医（医学博士：細胞診指導医）（1人）と専門知識を有する臨床検査技師（6人）が担当し、定期的に獨協医大病理、筑波大（医）病理、福島医大病理や福島労災病院病理との連携を取りつつ研鑽しています。

【特 徴】

・治療方針は、「病理診断」により決定されることを常に念頭におき、高精度の診断を提供出来るよう心掛けています。

なお、当科の臨床検査技師は細胞検査士の資格を有しており、細胞診のスクリーニングを連日おこなっています。



◎前列左より、
小野 早苗
浅野 重之（Dr.）
森 菊夫
◎後列左より
山崎 一樹
小松 香織
渡辺 順
池田 蓼

・研修医コース：

6週間の病理研修コースが用意されており既に9人が研修を経験しています。

・BSL (bed side learning) アドバンストコース：

福島医大医学部6年生が毎年2週間滞在して病理科で実地の研修と研究を行っています。平成16年から平成24年までに、21人の学生が実地研修をしました。

・臨床一病理症例検討会（CPC）：

病理解剖例を用いて研修医・担当医・病理医を中心となり行っています。すでに、90回目を終え、CPCレポートは「共立医報」に掲載しています。

・研究テーマ：

主たる研究テーマは「リンパ節疾患」ですが、その他、本院で経験した多くの症例につき臨床病理・細胞学的に研究をし、学会及び論文発表をしています。

人間ドック

【スタッフ紹介】

役 職	医 師 名	卒 年	専門分野・その他
主任部長	伊藤 順造	昭和53年	消化器がん手術 化学・放射線療法

【特 色】

1. がんは見逃さない

今、日本人の三人に一人ががんで亡くなる、とはよく聞くところです。担当医の長年の癌治療の経験（手術療法、放射線化学療法、動脈塞栓術）を生かし、がんの早期発見に迫っています。消化管は内視鏡での検査を標準とし、体表エコーにて乳がん・甲状腺がんの発見に努めています。

また、多くのがん患者の看取りの経験を生かし、癌外来（グリーフケア）に相当する心のケアにも時間をさしています。

2. ライフスタイルの変革に切り込む

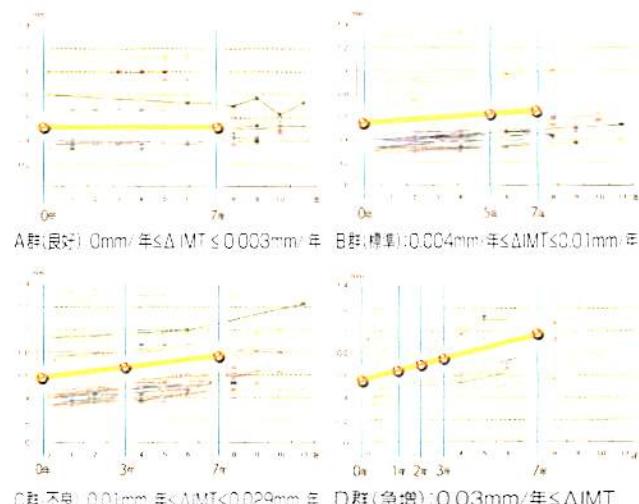
今、日本は、先進国で類を見ないスピードで高齢化を迎えています。

すべての老化現象は動脈硬化に始まる、とはよく言われるところです。

ドックは、がんを見つけるだけが仕事ではありません。老化のスピードを少しでも遅らせることで健康新命を長くすることも大切な使命の一つです。そ

のためには、歪んだライフスタイルの変革を促すことも必要です。その指標の一つとして頸動脈工コード得られる内膜中膜肥厚の変化（IMT）を採用しています。

△IMT (IMTの経年的変化率)



C群・D群の（病的変化率を示す）方々には、生活習慣の改善（有酸素運動、減量）に積極的に取り組むこと、また、現在受けている治療の工夫ないしは上のせをするように、強く指導することを心がけています。それは、CおよびD群の方々は虚血性心疾患や脳梗塞、脳出血のリスクが高くなるからです。

救命救急センター

【スタッフ紹介】

役 職	医 師 名	卒 年	専門分野・その他
センター長	小山 敦	平成5年	
科 長	村尾 亮子	平成14年	
医 師	岩井 健司	平成23年	

【特 色】

救命救急センターは、現在、福島県で4ヶ所にある救命救急センターのひとつとして運営しております。

昭和55年に許可を受け、平成14年4月にリニューアルし、設備の拡充とともに4名の救急専従医が配属されました。

現在、初期、2次救急患者の治療を行う救急外来と、一つの診療科だけでなく、数科にわたる処置や集中治療を要する3次医療ゾーンからなっており、年間22,768名の救急患者と4,426台の救急車の受け入れを行っています（平成25年度）。

また、日本救急医学会救急科専門医指定施設であり、救急医育成の場や、救急救命士のプレホスピタルケア教育の場としても重要な役割を果たしています。

新任医師紹介



循環器内科

塙 健一郎 医師

東北大学循環器内科より、4月から赴任いたしました。
3年ぶりに共立に戻ってく
ることができました。
よろしくお願ひいたします。



整形外科

関根 拓未 医師

平成16年自治医大卒、福島
県郡山市出身です。
宜しくお願い申し上げます。



形成外科

笠井 丈博 医師

4月より赴任しました。
精一杯頑張りますので、よろ
しくお願いします。



形成外科

藤田 悠氣 医師

岩手県出身です。
現在二輪免許取得中です。
いわき市の医療に貢献できる
よう頑張ります。



泌尿器科

嶋田 修一 医師

東北大学院を卒業して、4月
から赴任致しました。
平成15年 札幌医科大学卒
業です。
よろしくお願ひいたします。



産婦人科

金杉 優 医師

慶應義塾大学産婦人科より4
月から赴任致しました。
この地域の為になるよう頑張
りたいと思います。
宜しくお願い致します。



産婦人科

西山 浩 医師

いわき市四倉町出身で、高校
卒業以来久しぶりに地元に戻っ
てきました。
いわき市内の産婦人科医療に
貢献できるよう微力ながら頑張
りたいと思います。
よろしくお願い致します。



眼科

大浪 英之 医師

東北大眼科より赴任しまし
た。
いわきの医療に貢献できるよ
う頑張ります。
よろしくお願ひします。

地域医療連携室だより

眼科

國分 太貴 医師

東北大学眼科より4月から赴任致しました。
郡山市出身です。楽しく真摯に頑張ります。
よろしくお願ひ致します。

小児科

音羽 奈保美 医師

愛知県出身です。
元気よくがんばります。
よろしくお願ひします。

歯科口腔外科

傳田 祐也 医師

4月より赴任しました。
地域の皆様のために貢献できるよう、日々の診療を行っていきます。
よろしくお願ひ致します。

小児科

長尾 美香 医師

4月より仙台から赴任しました。郡山市出身です。
精一杯頑張っていきたいと思いまので、よろしくお願ひします。

小児科

塙 淳美 医師

一年ぶりに帰ってきました。
またお世話になります。
よろしくお願ひ致します。

研修医

三浦 隆介 医師

東北大学病院より、たすきがけで参りました初期研修医の三浦隆介と申します。
今年の4月から9ヶ月間小児科研修をさせていただきます。
精一杯頑張りますのでよろしくお願ひ致します。

研修医

荒川 将史 医師

いわき市出身です。地元の医療に少しでも貢献できるよう頑張ります。
よろしくお願ひします。



研修医

磯上 弘貴 医師

3月に福島県立医科大学を卒業しました。まだまだご迷惑をおかけすることがあるかとは思いますが、故郷・いわきのためには全力を尽くしたいと思いますのでよろしくお願ひ致します。

研修医

今井 利郎 医師

平成26年 東北大学卒です。よろしくお願ひします。

研修医

岩津 潤 医師

研修医1年目の岩津 潤と申します。東北大学出身です。
まずは最初の2年間、いわきで精一杯頑張りたいと思いますので、ご指導のほどよろしくお願ひいたします。

研修医

鵜沼 むつ貴 医師

いわき市小名浜出身で、出身大学は日本大学です。
地元に貢献できるよう勉強に励んでいきたいと思っております。
よろしくお願ひ致します。

研修医

岡部 永生 医師

鳥取大学を卒業し地元福島に戻ってきました。
福島県で初期研修ができることを大変嬉しく思います。
精一杯頑張ります。よろしくお願ひ致します。

研修医

西條 直也 医師

今年東北大学を卒業し、4月に赴任しました。
仙台市出身です。よろしくお願ひ申し上げます。

研修医

篠崎 康晴 医師

今年東北大学を卒業し、4月より初期研修医として働くことになりました。
至らぬことが多いと思いますが、少なくとも2年間よろしくお願ひします。

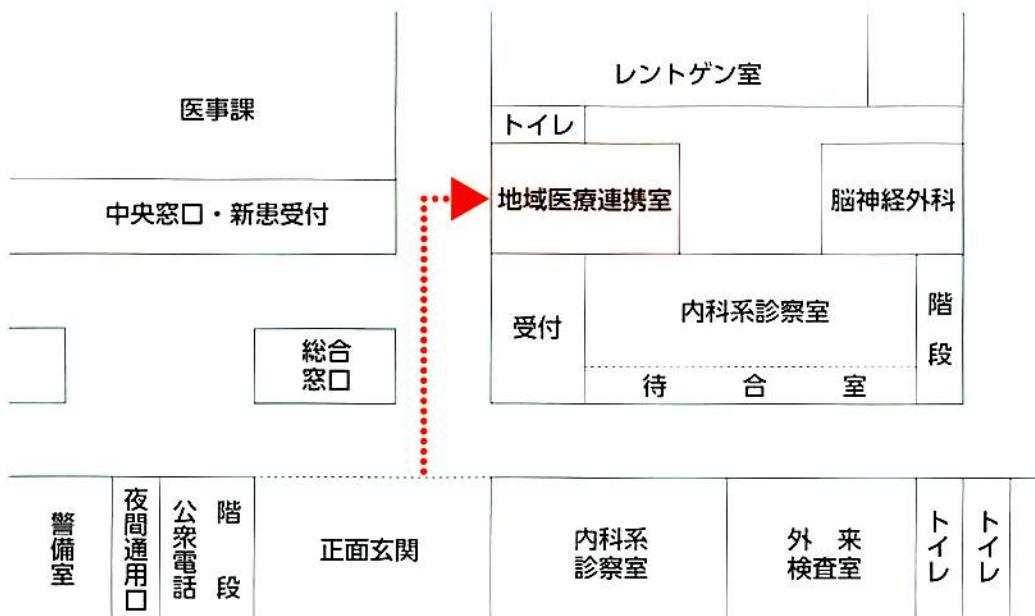
歯科研修医

川崎 力オル 医師

東京医科歯科大学を卒業しました。
分からることはたくさんありますが、一生懸命頑張ります。
よろしくお願ひします。

地域医療連携室が移動しました!

平成26年6月16日（月）より地域医療連携室が移動しました。
総合案内へ声をかけていただければ、ご案内いたします。今後ともよろしくお願ひいたします。



地域医療連携室への予約について

予約の際は、「**地域医療連携診療予約申込書**」及び
「紹介状（診療情報提供書）」を当室までFAXにてお送りください。

また、予約に関してご不明な点がありましたら、

下記まで電話でお問い合わせください。

予約受付時間 8：30～17：00

[土・日曜日は受付していません]

いわき市立総合磐城共立病院 地域医療連携室

電話 0246(26)2250(直通)

FAX 0246(26)2119